

かぜをひいたうさぎ ミヤンマー

昔むかし、王さまライオンに、三人の大臣がいました。くまと、さると、うさぎの三人です。

あるとき、ライオンは、三人の大臣のことがいやになって、食べてしまおうと思いました。そこで、大臣たちをよびだして、いいました。

「わしの口はどんなにおいがするかな」

そして、大きな口を開けました。すると、死んだ肉のいやなおいがしました。

くまは、正直者なので、

「王さまの口は、じつにいやなおいがします」と答えました。ライオンは、

「おまえは、みんなの目の前で、わしの悪口をいったな」といって、くまを食べてしまいました。

さるは、それを見て、ライオンのごきげんをとっていいました。

「王さまの口は、まるで上等の香水のようないいにおいがします」

ライオンは、

「おまえは、ごきげん通りのうそつきだ」といって、さるを食べてしまいました。

ライオンは、うさぎに、

「かしこいうさぎよ、わしの口はどんなにおいがするか、いってみよ」といいました。うさぎは、

「ぎんねんなことに、王さま。わたしは今、かぜをひいております。はながつまって、においがわかりません。家に帰ってしばらく休ませてください。かぜが治ったら、王さまの口においをお答えしましょう」といいました。

うさぎは、家に帰って行き、二度と、王さまの近くには行きませんでしたとき。おしまい。

村上郁再話

資料『新編世界昔ばなし集 東南アジア編』山室静／文元社